

総務省総合職 事務系(理工系)

先輩からのメッセージ

証拠に基づく政策立案(EBPM)が推進されている昨今、
複雑な経済社会の姿を映し出す「鏡」としての統計データ
の価値はますます高まっています。
あなたも「理工系事務官」として、国家の行方を支える
情報インフラづくりにチャレンジしてみませんか。

目次

- 01 統計局長挨拶 新時代の統計行政 ～統計で我が国のグランドデザインを描く～ p2
- 02 Interview 総務課長インタビュー ～一芸に秀でる者は多芸に通ず～ p3
総合プロジェクトたる統計行政の魅力
- 03 Career Path 自分のプロダクトを持つということ p5
多彩な業務経験を積んだ職員が語るキャリアパスと統計行政の醍醐味
- 04 Cross Talk 若手職員の同期対談 p7
他府省に出向中の若手職員が考える総務省と統計行政
- 05 若手職員の1日 p9
若手職員のリアルな1日をわかりやすくご紹介
- 06 Q&A よくある質問 p10

01

統計局長挨拶 新時代の統計行政

～統計で我が国のグランドデザインを描く～



総務省統計局長

岩佐 哲也 平成2年入省



【統計行政について】

近年、証拠に基づく政策立案(Evidence-based Policy Making)という言葉が一般的に使われるようになり、統計データの価値及び統計分析の重要性が広く認識されるようになりました。少子高齢化が本格化するなど多くの難題を抱え、国の新たなグランドデザインが求められている時代において、正確なデータとしての公的統計の重要性は、これまで以上に高まっています。

統計局では、我が国の行政情報の基盤となる国勢調査や経済センサス、消費者物価指数、労働力調査、家計調査など、主要な統計調査を企画・実施し、公表しています。近年では、ビッグデータを活用した新指標の開発や統計オープンデータの高度化、データサイエンティストの育成、統計ICTの国際展開など、調査環境の変化や進化に応じ、様々な取組を進めてきました。

ChatGPTなどAIの進化が急速に進む昨今、AIを含む最先端技術の導入についても、積極的に取り組んでいます。例えば、消費者物価指数(CPI)の推計においては、商品の文字・画像情報を種類・品質別に自動分類するAIの開発及び実用化に向けた研究を行っています。5年に一度、我が国の最も大規模な国家プロジェクトの一つとして実施される国勢調査においても、調査票の記入内容の読み取りに当たり、AI文字認識システムや自動分類システムの活用を進めています。

また、統計局においては、テレワークやフレックスタイム制、各種休暇の取得など、それぞれの職員がライフステージに合わせた働き方を選択できるよう、職場環境の整備を率先して進めており、多くの女性職員が活躍しています。

【多彩なキャリアパスについて】

総務省では、いわゆる文系の職業という印象のある国家公務員の中であって、理工系の専門性を持った多くの職員がリーダーとして活躍しています。理工系の筋立てた思考力や想像

力、ファクトに基づく分析力や数式、プログラムを取り扱う、データサイエンティストとしての能力は、公務にも特に必要とされており、その活躍の場は、統計行政を中心に、省内の行政管理、行政評価、情報通信、地方自治、他府省や地方自治体、国際機関への出向など多岐にわたります。

私は平成2年に国家公務員として採用され、既に30年以上が過ぎました。私自身も、総務省では国家公務員の人事行政、内閣府では青少年育成や男女共同参画行政、規制改革など、様々な業務を経験してきました。統計局では、国勢調査や経済センサスといった我が国の基盤となる様々な統計調査を担当してきました。改めて振り返ってみて、充実した公務員人生を過ごしてきたと思います。

【ご関心をお持ちの皆様へ】

ここでは、皆さんの先輩となる職員から様々なメッセージなどをお届けしています。統計行政の業務内容について知っていただくとともに、何か興味を引く内容があれば、お気軽に連絡をいただければと思います。また、総務省では、業務説明会やインターンなども行っていますので、是非参加して知見を深めていただければと思います。熱意ある皆様と共に総務省で働ける日を心待ちにしています。





02

Interview

総務課長インタビュー

～一芸に秀でる者は多芸に通ず～



総務省統計局

総務課長

上田 聖 平成7年入省

河原：本日はお時間をいただきありがとうございます。統計行政に興味を持ってくださった皆様に向けてお話を伺えればと思っておりますが、私自身も上田課長のお話を聞かせていただく機会を楽しみにしておりました。早速ですが、上田課長は、平成7年に総務省に入省され、今年で30年目とお伺いしました。これまで、様々な業務に携わられてきたかと思いますが、率直に総務省に入省していかがでしたか。

上田：総務省は、私に最高のライフステージを提供してくれました。その意味で総務省にとっても感謝しています。私は学生時代に数理統計学を専攻し、学んだことを生かした仕事をしたいと考えて総務省理工系事務官の門を叩きました。その後、統計局の統計の審査・分析、統計システムの開発、統計法令の改正、政府全体の統計整備計画の企画・立案、大規模調査創設プロジェクトなど、統計に関係する様々な仕事を体験してきました。やりたいことを仕事として与えていただき、とても幸せな職業人生を歩んできたと思っています。

河原：やりたいことを仕事にしてこられた

とのこと、素敵ですね。私もこれから様々な経験をさせていただければと楽しみにしているところです。

総務省の所管は、行政管理、情報通信、地方自治など幅広く、それぞれ行政分野ごとに特徴があると思いますが、なかでも統計行政の特徴はどのような点でしょうか。



上田：統計行政は、実際に目に見える「統計」という製品を作り出す行政分野です。そして、統計技術のみならず、産業や職業の区分などの社会に即した実践的な統計の基準、データを処理する情報システム、行政としての法令の整備、人材や予算といったリソースの確保、データをわかりやすく理解させる表現力やデザイン力といった様々な知識や能力を必要とし、それらを

得意とする専門家が存在しています。その意味で統計行政は様々な専門能力やプロジェクトを組み合わせてそれらの総力を挙げて成果を出していく“総合プロジェクト”の要素が極めて強い行政分野であるといえます。

河原：私は今、経済構造実態調査という法人企業を対象とした大規模な調査の企画業務に携わっていますが、調査対象企業の回答負担を軽減しつつ、利用者にとって有効かつ正確な統計を作成するため、委託事業者や他省庁など各所との調整が必要であり、まさに統計行政は総合プロジェクトということ、日々実感しています。そうした統計行政に従事する行政官に求められる特性は、どのようなものだと思いますか。



上田：多くの行政分野に共通することですが、行政官は自分たちが受け持つ行政分野のエキスパートでなければなりません。統計行政を担う行政官は、総合プロジェクトである統計行政に必要とされる能力を持つ人材に自らを成長させていく必要があります。

そして、統計はそれだけでは完結せず、それを解釈して政策に反映したり、効果を計測したりして初めて意味あるものになります。その意味で、総合プロジェクトたる統計行政で培った能力は、様々な行政分野と極めて相性が良く、多くの理工系事務官が統計行政以外の行政分野でも活躍しています。理工系事務官は、統計行政を支えながら必要とされる能力を身につけ、そこで培った能力を総務省の他部局や他省庁に出向して政策に生かしたり、政策の効果を測定したり、政策にマッチするデータをデザインする行政官として活躍しています。

「一芸に秀でる者は多芸に通ず」という言葉があります。統計やデータに強みを持つことは様々な行政分野に通ずることに

なります。諸先輩、そして後輩たちは、統計やデータに対する知見と能力を背景に、様々なミッションに立ち向かう決戦兵力になっています。

河原：「一芸に秀でる者は多芸に通ず」、私も心にとめながら、今後様々な行政分野で活躍できるよう精進していきたいです。最後に総務省を志望している皆さんに対して、熱いメッセージをお願いします。

上田：統計やデータに関する能力を武器として行政官として様々なステージで活躍することを希望する方、総務省は最高のステージを準備してお待ちしております。「叩けよ、さらば開かれん」



聞き手

令和3年入省
総務省統計局統計調査部
経済統計課企画係
河原 里佳



自分のプロダクトを持つということ

総務省統計局
統計調査部消費統計課物価統計室長

赤谷 俊彦 平成17年入省

“プロダクトへの責任を持つ
姿勢を大事にする”

現在の業務

全国の世帯が購入する財・サービスの価格を調査し、これらを総合した指数「消費者物価指数」を作成する業務に携わっています。

2021年以降の物価上昇が注目を集める中、都道府県や統計調査員の皆様と連携して、漏れなく滞滞なく調査を実施し、信頼できるデータとして毎月の公表につなげていくことには、常に緊張感が伴います。しかし、公表した指標が各種メディアに取り上げられ、社会福祉や金融政策の議論の基礎資料として実際に用いられている様子を見ると、その充実感が緊張感をはるかに上回っていることを

実感します。

公務員の仕事の中には、「●●計画」や「●●方針」のように入口部分の立案だけでニュースになるようなものもありますが、統計行政には統計データというプロダクトがある以上、その作成プロセスについて不断の見直しを行い、最後まで品質に責任を持ち続けることが求められます。統計行政に携わることにより、常に業務プロセスの改善を意識する基本姿勢が自らに備わったのではないかと考えています。

これまでのキャリアを振り返って

これまで担当した業務を振り返ると、統計調査や統計制度の企画立案、情報通信分野の通商交渉、独立行政法人の経営企画、総務省の働き方改革、秘書業務、デジタル・ガバメントの推進と極めて多岐にわたります。一つ一つの業務から大きな学びを得ることができ、次のキャリアにしっかりとつながっています。これは、先に述べたプロダクトへの責任を持つ姿勢を大事にして、決してやりっぱなしにはしないとの意識が影響しているものと確信しています。

統計行政は、昨今華々しさと共に語られるデータサイエンスのイメージとはやや異なり、統計データ作成に伴う泥臭さもあります。しかし、それが一番の醍醐味でもあり、統計行政に携わる公務員にしか味わえない魅力があります。皆様と将来、この魅力を共感できるようになることを楽しみにしています。



Career Step

平成17年
2005年

入省

統計法の全面改正 2006年～2007年

“「行政のための統計」から「社会の情報基盤としての統計」へ”というスローガンを掲げた、統計法を60年ぶりに全面改正するプロジェクトに参画しました。理工系出身でありながら行政法の基礎を学びつつ統計の考え方を法令に落とし込む、という作業はハードなものでしたが、公的統計の体系的な整備や利活用推進に関する制度が試行錯誤の末に実際に形になっていく体験は、何物にも代えがたいものであり、行政官としてのキャリアパスを歩んでいく上での基盤となりました。

ICTを活用した総務省職員の働き方改革

2017年～2018年

総務省が運用する情報システムの中長期的な計画の取りまとめを行うとともに、有志職員から構成される「総務省働き方改革チーム」の事務局を務めました。まだテレワークなどの柔軟な働き方に関する取組が先進的と捉えられていた頃ではありましたが、省内横断的に意識改革、業務改革及びインフラ整備の3つの観点から議論し、意欲的な提言をまとめるに至りました。その後、新型コロナウイルス感染症への対策を迫られつつも業務継続ができたのは、コロナ禍以前から総務省全体として働き方改革を推進していたことが大きく寄与していたものと考えています。



秘書業務 2016年～2017年、2018年～2020年

総務大臣政務官の秘書業務を1年、内閣情報通信政策監（政府CIO）の秘書業務を2年経験しました。単にスケジュール管理などを行うだけでなく、国会や重要なイベントにてどのようなメッセージを発し、組織のプレゼンス向上に寄与するのといったことを常に考え、お仕える幹部と原課との橋渡し役を担いました。また、公務員出身ではない方の考えを身近に学び、視野を広げる貴重な機会となりました。



令和6年
2024年

現在



厚生労働省政策統括官(統計・情報システム管理、
労使関係担当)付参事官(企画調整担当)付主査

大橋 英明



内閣官房新しい資本主義実現本部
事務局主査

鈴木 ななみ

令和2年4月 総務省入省
同 政策統括官(統計基準担当)付統計企画管理官付
令和3年7月 独立行政法人統計センター総務部経営企画課
令和4年7月 総務省統計局統計調査部国勢統計課
令和5年11月 現職

令和2年4月 総務省入省
同 統計局統計調査部経済統計課
令和3年7月 政策統括官(統計制度担当)付統計企画管理官付
令和4年8月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室
令和5年7月 現職

▶ 自己紹介

鈴木: 私は現在、内閣官房新しい資本主義実現本部事務局に出向しています。内閣官房は、内閣の重要施策の企画立案や総合調整などを担っている組織で、その中でも新しい資本主義実現本部事務局は、内閣の主要政策の一つである「新しい資本主義」の実現に向けて、様々な施策に取り組む各省庁をサポートしています。

学生時代は素粒子理論専攻で、課外活動では女子バスケット部のマネージャーをしていました。今でもバスケット観戦が趣味で、シーズン中の週末はかなりの頻度で遠征しています!

大橋: 私も鈴木さんと同じく、今は総務省ではなく厚生労働省で働いています。厳密に言うと、「統計品質管理官」という肩書で総務省に身分を置いたまま、厚生労働省の統計の作成をサポートする立場にいます。ややこしいですね(笑)

学生時代は情報工学を専攻していて、データ分析に関する研究を行っていました。サークルは、推理小説研究会というところに所属していて、今でも読書は趣味の一つです。

今日の対談が、少しでも皆様の参考になれば嬉しいです!

▶ 説明会は情報収集の場!

鈴木: 実は、大橋さんとは別の省庁の官庁訪問でも一緒だったんですね。

大橋: しかもその会場で、鈴木さんから、訳あってスマホのテザリング機能を借りるというご迷惑をおかけました(笑)

鈴木: なんだか変わった人がいるなと思っていたら、結局、総務省に同期として入省することになりました(笑)

大橋: 官庁訪問の会場は、緊張した雰囲気もありますが、こんな感じで志望者同士の交流が生まれる場所だと思います。もちろん、官庁訪問の本来の趣旨のとおり、色々な職員の方々とお話する機会がありますよね。

鈴木: そうですね。私は元々、あらゆる人に共通に必要な制度に携わりたと思ったことをきっかけに公務員を目指すようになったのですが、実際に職員の方から話を聞いてみて、自分のこれまでの経験を活かせそうな場面が多くあると特に感じたのが総務省でした。ただ、統計に関しては、「数字や数式に拒否感がなければ大丈夫」という先輩の言葉を真に受けて入省したので、今もまだまだ勉強中です。

大橋: 私は、正直に言うと、元々公務員を強く志望していた訳ではなかったのですが、大学で実施されていた説明会に参加した際に、総務省の先輩から聞いた業務上の経験談がすごく面白くて。その後の説明会や官庁訪問の中で、他の職員の方々から業務の

内容や働き方を伺って、自身が総務省で働くイメージを固めることができたと思います。宣伝のようになってしまいますが、皆さんも情報収集の場としてぜひ説明会をご活用ください!

▶ 柔軟な働き方ができる職場

鈴木: 私たちの社会人生活はコロナ禍と同時に始まりました。入省1年目は出勤抑制が特に厳しい時期ではありませんでしたが、当時担当していた経済構造実態調査を無事実施することができました。もちろん、調査対象企業からの問合せなど出勤しないとできない業務もあるので、状況に応じて柔軟にテレワーク等を活用していました。調査実施業務が落ち着いて、次回調査に向けた検討で係内外での打合せが増えた時期も、オンライン会議が中心だったので会議室の確保や移動の手間に煩わされることもあまりありませんでした。

大橋: 総務省はもともとテレワーク体制の充実を進めていたので、有事のなかスムーズに移行できたのかなと思います。新型コロナウイルス感染症が5類に移行された現在も、若いお子さんがいらっしゃる方々など、多くの職員がテレワークを活用されているように感じます。また、鈴木さんもおっしゃっていましたが、業務改革の観点から、上司や関係者とオンラインで打合せを行う機会は多いです。公務員は、大量の紙に埋もれながら仕事をしているイメージを持たれがちですが、意外とそんなことはありません(笑)



▶ 統計は「社会を映す鏡」

鈴木: 入省してからすごく感じたのは、統計は経済とのつながりがとても強いということ。例えば、3年目には「経済の体温計」とも呼ばれる消費者物価指数(CPI)を担当していました。このときは、第2次オイルショック以来、約40年ぶりの物価上昇を記録していた時期だったので、公表日には報道でも大きく取り上げられるなど、注目度の高さを実感しました。

大橋: 私が住宅・土地統計調査を担当していた時期は、ちょうど空き家対策に関する議論が盛んだったので、空き家の数についての問合せを受けることが何度もありました。統計は、「社会を映す鏡」だということを改めて認識しました。

また、1年目には、統計法という法律を扱う業務をしていたのですが、法律が成立するまでの積み重ねが全て「文書」になっていることに驚かされました。行政の仕事は、積み重ねをどのように解きほぐしていくのか、また、与えられた積み重ねの中でどのように新たな問題を整理するのか、といったパズルのような楽しさがあると思います。

鈴木: 「法律」と言われると理工系からは縁遠く聞こえてしまいがちですが、「パズル」と考えるとかなり親近感がありますね。そういえば、ある先輩は「法律はプログラミングに似ている」とも言っていました。行政官の仕事って理系的な考え方と通じる部分が多いのかもしれないですね。



志望者へのメッセージ



統計は、昨今のDXなどの大きな流れの中、社会の形を正しく捉えるために変えていかなければならないことも多く、まさにいま過渡期にあるように感じています。「理工系事務官」として活躍できる場はたくさんありますので、是非皆様のお力をお貸しください!



総務省では「理工系事務官」がそれぞれのバックグラウンドをいかしながら、それでいて専門分野にとらわれない様々なフィールドで活躍しています。統計を通じて幅広い分野に関わることができるのが統計行政の魅力です。何か少しでも興味を引かれることがあれば、是非、総務省へお越しください!

※本文中で触れられている各統計について、より詳しく知りたい方は、以下のHPをご覧ください。

●経済構造実態調査: <https://www.stat.go.jp/data/kkj/> ●消費者物価指数(CPI): <https://www.stat.go.jp/data/cpi/> ●住宅・土地統計調査: <https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/>

05 若手職員の1日

令和3年入省

河原 里佳 総務省統計局統計調査部
経済統計課企画係

経済統計課で経済構造実態調査の企画業務に従事しています。
経済構造実態調査は企業を対象にした調査で、総務省・経済産業省のほか、委託事業者、独立行政法人統計センターの4者が協力して調査を実施しています。

令和5年入省

八木 海有 総務省統計局統計調査部
国勢統計課労働力人口統計室就業動向指標第一係

労働力人口統計室で労働力調査の結果公表及び分析業務に従事しています。
労働力調査は世帯を対象とした調査で、毎月、就業者数や完全失業率などを調査結果として公表しています。

Schedule 河原係員のとある1日

登庁 メールチェック

9:30

毎朝のメールチェックは、大事なモーニングルーティーンです。
経済構造実態調査は関係者が多いため、メールなどで密に情報共有を行っています。

関係者とのミーティング

10:00

週例のミーティングでは、委託事業者から調査の進捗状況についての報告があるほか、今後の調査の進め方についても関係者全員で話し合います。

お昼休み

12:00

庁舎内の食堂を利用することが多いです。同期と近くでランチすることもあります。今日は同じ課のメンバーで、おしゃれなカフェに行きました。

エジプト中央動員統計局の研修対応

13:00

エジプト中央動員統計局の方が日本の統計調査について学びに来られていたので、英語で経済構造実態調査に関する説明を行いました。エジプト中央動員統計局の職員の方は、みなさん勉強熱心で、有意義な時間になりました。

調査対象企業からの問合せ対応

15:00

委託事業者がコールセンターを設けていますが、期間中は総務省への問合せも増加します。調査対象企業に対しては、調査の必要性を丁寧に説明し、回答を依頼するようにしています。

委託事業者からの個別対応相談

17:00

週例のミーティングでも調整は行いますが、調査対象企業が絡むものは早期の対応が求められるため、個別で対応の相談が来るようになっています。多い時期は毎日複数件の対応が必要になるため、手分けしながら対応を決め、委託事業者に指示をします。

退庁

19:00

退庁後は友人と食事をしたり、買い物をしたり、ジムに通ったりしています。

Schedule 八木係員のとある1日

登庁 新聞チェック

8:30

登庁したら、まず新聞各紙に目を通し、調査結果を引用した記事や調査に関連する記事をチェックします。収集した情報は室内で共有します。完全失業率は注目度が高い経済指標の一つであり、調査結果の公表後には、ニュースや新聞で報道されています。

季節調整値の試算

10:00

私の担当業務の一つに、季節調整値(季節要因による変動を取り除いた値)の年次改定があります。今日は実際にプログラムを回して試算値の算出を行います。試算結果については、わかりやすい資料にまとめ、室長に説明します。

お昼休み

12:00

一人で近くの飲食店の開拓をする日もありますが、今日は同期と食堂で昼食を食べます。

統計ユーザーからの問合せ対応

13:00

記者や他省庁の職員、エコノミストなど、データを利用している様々な方から電話が来ます。調査結果を正確に利用していただくため、用語の定義やデータの掲載箇所などをわかりやすく丁寧に説明します。

結果出力・資料作成

15:00

今日は、最新の結果が独立行政法人統計センターで集計され、出力される日です。データが出力され次第、報道発表資料や分析用資料の作成に取りかかります。この日に作成した資料を基に、公表日までに室内で調査結果の分析などを行います。

ホームページ編集

17:00

労働力調査のウェブページの更新も大事な業務の一つです。最新の調査結果をHTMLファイルに書き込み、公表日に更新されるようにします。ミスが起きないように、係内で必ずダブルチェックをしています。

退庁

18:30

データの出力から公表日までは忙しい期間ですが、キリの良いところで退庁します。退庁後は同僚や友人と飲みに行くこともあれば、ライブ鑑賞が趣味なので、ライブハウスに直行することもあります。

06 Q&A よくある質問

Q 入省するにはどのような知識・能力が必要ですか。
統計や法律などの専門知識がなくても大丈夫でしょうか。

A 専門的な知識は大いに役立ちますが、
入省後に身につける職員も大勢います。

入省後は統計のみならず、法律や経済の知識やコミュニケーション能力などを含めたより実践的で幅広い知識・能力が必要となるため、多くの職員は入省後に業務経験を積みながら少しずつ身につけていくことになります。統計の知識やデータ処理のスキルなど既に持っている知識や能力があれば大いに役に立ちますが、それよりも理系的なセンスを活かして専門性を深めていく探究心や、未知の分野にも積極的に挑戦する好奇心・向上心を持っていることが重要です。入省後、研鑽をサポートする研修も豊富に用意されています。

Q どのような試験区分から採用していますか。

A 理工系はもちろん、農学系や人間科学区分からもチャレンジしていただけます。

現職の職員は、理工系の試験区分(工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学)からの採用者が多くなっています。しかし、例えばデジタル、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、人間科学などの試験区分の合格者も、統計行政を中心に活躍いただけます。また、総務省では出身大学(大学院)や学部(研究科)、試験の順位に関係なく、人物本位の採用を行っています。

Q 国際的な仕事をする機会がありますか?

A 国際的な舞台にも活躍の場があります。

人事院の制度を利用して海外の大学院で学位を取得した職員や、ニューヨークにある国際連合の統計担当部局に派遣された職員もいます。また、国際会議への参加など活躍の機会も多く用意されています。



総務省



総務省統計局

総務省第2庁舎

〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号

電話 03-5273-2020(代表)

●総務省統計局ウェブサイト

<https://www.stat.go.jp/>

●総務省総合職事務系(理工系)採用情報ウェブサイト

https://www.stat.go.jp/info/saiyo/sougou_top.html

●総務省総合職事務系(理工系)採用担当

E-mail : saiyo-rikou@soumu.go.jp

